

【事業名】  
(京都府京都市) 【団体名】 チマキザサ再生委員会

## 事業の背景・目的

祇園祭の厄除け粽、京料理や京菓子などに利用されてきた京都市北部山間地域に自生するチマキザサ。2000年代当初に起こった数十年に一度という一斉開花ののち、鹿の食害によりササが育たないという現状に直面した。これを解決すべく、地域・関係団体・大学・行政等が協力して防鹿柵を設置するなどし、チマキザサを象徴とする地域の生態系の再生、保全に取り組んでいる。今後、流通の復活など経済的な循環の創出を図りつつ、消費地を巻き込みながら、新たな森-里-都市のつながり（地域資源【自然・人材・資金】の循環）を生み出し、京都の文化の継承・発展を目指していく。

## 事業の内容

### 事業①【チマキザサ再生環境整備事業】

- ・天狗杉保護区でチマキザサ約6万枚を収穫したほか、支障木の伐採など再生環境整備を行い、チマキザサ苗の移植を実施。
- ・保護区内のチマキザサ分布状況及び昨年度の移植株の定着状況を調査。チマキザサ以外にも含めた有用植物のモニタリングも行った。



### 事業②【担い手確保及び技術継承支援事業】

- ・担い手組織の家族・親族を対象としたワークショップに加え一般の方向けの体験ワークショップも開催した。
- ・チマキザサの採取等に10名のボランティアが参加した。

### 事業③【チマキザサ流通促進事業】

- ・出荷先に求める品質の聞き取りを行い、需要に合った品質のものを出荷した。
- ・チマキザサの新規需要を創出するための支援を行った。

### 事業④【普及啓発事業】

- ・京都市生物多様性ポータルサイト「京・生きものミュージアム」のチマキザサ再生活動に関する専用のページにおいて、活動状況等を発信している。
- ・「きょうと☆いきものフェス！」に出展した。

## 得られた成果

チマキザサ再生の取組の成果により、令和4年度には初出荷（約5万枚）に至り、令和5年度も出荷（約4万枚）することができた。一斉開花前の平均的な出荷量（約930万枚/年）の約0.5%という状況ではあるものの、経済的循環の入口には到達した。今後も着実に再生は進むと推測するが、担い手の高齢化等に起因する課題への対策や獣害対策を継続する必要がある。また、生態系の保全、維持には防鹿柵の継続的な設置が必要であり、既存の防鹿柵の維持・管理、再生を促す再生環境整備や移植を継続するには金銭的、労務的負担が必要となる。そのため、今後も本委員会が中心となり、再生事業の計画構築、必要な資金の獲得や担い手確保及び担い手組織の強化などの取組を実施していく。

花脊別所産チマキザサの再生状況について複数の事業者からの問い合わせがあったこと、多くの方がワークショップやボランティアに参加し意見や提案を受けたことから、本取組への興味・関心の高まりを感じている。今後も新たなつながり、循環を生み出し、京都の文化の継承・発展を目指す取組を継続する。